赤字:設備,運用又は体制の相違点(設計方針の相違) 緑字:記載表現,設備名称の相違点(実質的な相違なし) :前回提出時からの変更箇所

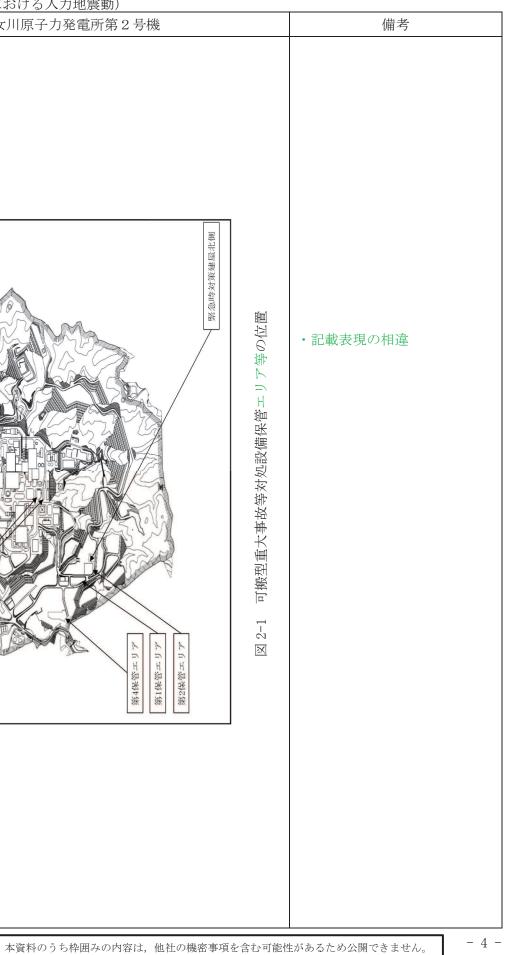
先行審査プラントの記載との比較表(VI-2-別添 3-2 可搬型重大事故等対処設備の保管エリア等における入力地震動)

柏崎刈羽原子力発電所第7号機	《参考》東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
			・工認資料構成の相違 (以下,章番号や図表番号等の 相違については,差異理由の記 載を省略)
		Ⅵ-2-別添 3-2 可搬型重大事故等対処設備の	D保 ・記載表現の相違
		管エリア等における入力地震	動

日次 1、 残辱 2. 可換型量ム学体等物決診備の保管エリア等 2. 可換型量人学体等物決診備の保管エリア等における入力地震動の算定 3.1 保管エリア等における入力地震動の算定 3.1 保管エリア等における入力地震動 3.2 解析条件の設定 3.3 地震広省毎析モデルの作成 3.4 地震体影響析に用いる地震動 3.5 地震比省毎新モデルの作成 3.5 地震比省毎新モデルの作成 4. 加速度比省毎新モデルの作成 4. 加速度比省本の力力での最大応等加速度 4.1 保管エリア等の最大応等加速度 4.1 保管エリア 4.3 第2 保管エリア 4.5 第4 保管エリア 4.6 第4 保管エリア 4.6 第4 県管エリア 4.6 第4 県管エリア	備考
 三 可要型重大事故等对処設備の保管エリア等・・・・ 3. 保管エリア等における入力地実動の算定・・・・ 3.1 保管エリア等における入力地実動の算定方針・ 3.2 解析条件の設定・・・・ 3.3 地震応答解析に用いる地震動・・・ 3.4 地震応答解析に用いる地震動・・・ 3.5 地震応答解析における解析ケース・・・・ 4. 加速度応答系ペクトルの算定・・・・・ 4.1 保管エリア・・・・・・ 4.2 第1保管エリア・・・・・・ 4.3 第2保管エリア・・・・・・ 4.4 第3保管エリア・・・・・ 4.5 第4保管エリア・・・・・ 	
 保管エリア等における入力地震動の算定・	1
 3.1 保管エリア等における入力地震動の算定方針・ 3.2 解析条件の設定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	・記載表現の相違
 3.2 解析条件の設定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
 3.3 地震応答解析モデルの作成・・・・・・・ 3.4 地震応答解析に用いる地震動・・・・・・ 3.5 地震応答解析における解析ケース・・・・・・ 4. 加速度応答スペクトルの算定・・・・・ 4.1 保管エリア等の最大応答加速度・・・・・・ 4.2 第1保管エリア・・・・・・ 4.3 第2保管エリア・・・・・・ 4.4 第3保管エリア・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
 3.3 地震応答解析モデルの作成・・・・・・・ 3.4 地震応答解析に用いる地震動・・・・・・ 3.5 地震応答解析における解析ケース・・・・・・ 4. 加速度応答スペクトルの算定・・・・・ 4.1 保管エリア等の最大応答加速度・・・・・・ 4.2 第1保管エリア・・・・・・ 4.3 第2保管エリア・・・・・・ 4.4 第3保管エリア・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	・記載方針の相違
 3.4 地震応答解析に用いる地震動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	····· 4
 3.5 地震応答解析における解析ケース・・・・・・ 4. 加速度応答スペクトルの算定・・・・・・ 4.1 保管エリア等の最大応答加速度・・・・・・・ 4.2 第1保管エリア・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	····· 16 ·記載表現の相違
 3.5 地震応答解析における解析ケース・・・・・・ 4. 加速度応答スペクトルの算定・・・・・・ 4.1 保管エリア等の最大応答加速度・・・・・・・ 4.2 第1保管エリア・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	・記載表現の相違
 4. 加速度応答スペクトルの算定・・・・・・ 4.1 保管エリア等の最大応答加速度・・・・・・ 4.2 第1保管エリア・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	······ 24 ·記載表現の相違
 4.1 保管エリア等の最大応答加速度・・・・・・ 4.2 第1保管エリア・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	····· 25 ・記載表現の相違
 4.1 保管エリア等の最大応答加速度・・・・・・ 4.2 第1保管エリア・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
 4.2 第1保管エリア・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
 4.3 第2保管エリア・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
4.4 第3保管エリア・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	相違
4.5 第4保管エリア・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	101
4.6 緊急時対策建屋北側・・・・・	130
	159
	「事項を含む可能性があるため公開できません。 - 2

柏崎刈羽原子力発電所第7号機	《参考》東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
		1. 概要	
		本資料は, 添付書類「VI-2-別添 3-1 可搬型重大事故等対処	・添付資料構成の相違
		設備の耐震計算の方針」に示すとおり,可搬型重大事故等対処設	(以下,添付書類の章番号や図
		備保管エリア等に保管する可搬型重大事故等対処設備につい	番等については、差異理由の記
		て、その加振試験等に際して必要となる入力地震動を求めるた	載を省略)
		めに行う,基準地震動Ssを基にした各保管エリア等の地盤等	・記載表現の相違
		の地震応答解析について説明するものである。	
		なお, 原子炉建屋, 制御建屋, 緊急時対策建屋については, 添	・記載表現の相違
		付書類「VI-2-1-7 設計用床応答曲線の作成方針」に示す。	
		本資料には,可搬型重大事故等対処設備保管エリア等の地表	・記載表現の相違
		面における加速度時刻歴波形及び加速度応答スペクトルを示	
		す。	
		2. 可搬型重大事故等対処設備の保管エリア等	・記載表現の相違
		可搬型重大事故等対処設備は,位置的分散を考慮し,以下に示	
		す箇所に保管する。 可搬型重大事故等対処設備保管エリア等の位置を図 2-1 に示	
		可爾至里八爭取等利处設備床目エリノ等の位置を因 2-1 に小す。	
		7 o	・保管場所及び保管場所名称の
		 第1保管エリア 	相違
		 ・第2保管エリア 	
		 第3保管エリア 	
		 第4保管エリア 	
		・緊急時対策建屋北側	

	柏崎刈羽原子力発電所第7号機	[*] ラントの記載との比較表(VI-2-別添 3-2)可搬型重大事故 《参考》東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機



柏崎刈羽原子力発電所第7号機	《参考》東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
		3. 保管エリア等における入力地震動の算定	・記載表現の相違
		3.1 保管エリア等における入力地震動の算定方針	
		保管エリア等における入力地震動は、水平方向及び鉛直方	
		向に対して,解放基盤表面で定義される基準地震動Ssを基	
		に,各保管エリア等における地震応答解析により算定する。基	
		準地震動Ssは添付書類「VI-2-1-2 基準地震動Ss及び弾	
		性設計用地震動Sdの策定概要」による。	・記載表現の相違
			(女川は、「3.4 地震応答解析
		第1,第3,第4保管エリアにおける地盤の地震応答解析は,	に用いる地震動」に記載)
		一次元重複反射理論により行う。解析コードは「SHAKE Ver1.6」	・設計の相違
		及び「microSHAKE/3D Ver2.3.3」を使用する。	(使用する解析コードの相違)
		第2保管エリアは淡水貯水槽上に設定されており,地盤及	・設計の相違
		び構造物の地震応答解析は二次元 FEM 解析により行う。解析	(保管エリア等の設置状況の相
		コードは「SuperFLUSH/2D Ver.6.1」を使用する。	違)
		緊急時対策建屋北側における地盤の地震応答解析は、一次	
		元重複反射理論により行う。解析コードは「SHAKE Ver1.6」を	
		使用する。	
		なお、解析コードの検証及び妥当性確認等の概要について	・記載表現の相違
		は,添付書類「VI-5 計算機プログラム(解析コード)の概要」	
		に示す。	・記載表現の相違
		保管エリア等における入力地震動の算定フローを図 3-1 に	
		示す。	・記載表現の相違
			(女川は,添付書類「VI-2-1-3
		解析条件の設定 (解析方針)	地盤の支持性能に係る基本方
			針」に基づき設定)
		解析モデルの作成	
		(地質構造・地盤物性・材料物性)	
		地震応答解析	
		保管エリア等の地表面位置における 入力地震動の算定	
		図 3-1 保管エリア等における入力地震動の算定フロー図	・記載表現の相違

本資料のうち枠囲みの内容は、他社の機密事項を含む可能性があるため公開できません。

柏崎刈羽原子力発電所第7号機	《参考》東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機

備考
・記載表現の相違
(女川は, 添付書類「VI-2-1-3
地盤の支持性能に係る基本方
針」に基づき設定)

柏崎刈羽原子力発電所第7号機	《参考》東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機

備考
・記載表現の相違
(女川は, 添付書類「VI-2-1-3
地盤の支持性能に係る基本方
針」に基づき設定)

柏崎刈羽原子力発電所第7号機	ントの記載との比較表 (VI-2-別添 3-2 可搬型重大事故等対処 《参考》東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
		1	
		J	

柏崎刈羽原子力発電所第7号機	ラントの記載との比較表(VI-2-別添 3-2 可搬型重大事故等対処 《参考》東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
		A	

柏崎刈羽原子力発電所第7号機		女川原子力発電所第2号機	備考	
		• • • •		
		本資料のうち枠囲みの内容は、他社の機密事項を含む可能	いみがまてたみ八眼でたナルノ	- 1

柏崎刈羽原子力発電所第7号機	《参考》東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機
		3.2 解析条件の設定(1) 地盤の解析用物性値
		保管エリア等おける地震応答解析に用い 物性値は, 添付書類「VI-2-1-3 地盤の支持 方針」に基づき設定する。 地震応答解析に用いる地盤の解析用物性 3-4に, 地盤の解析用物性値の設定根拠を表 示す。 第1, 第2, 第4保管エリア及び緊急時本 牧の浜部層の解析用物性値を, 第3保管エ 層の解析用物性値を用いる。

}機	備考
	・記載表現の相違
	・記載表現の相違
	(女川は, 添付書類「VI-2-1-3
	地盤の支持性能に係る基本方
	針」に基づき設定)
に用いる地盤の解析用	・記載表現の相違
の支持性能に係る基本	
用物性値を表 3-1~表	・記載表現の相違
剥拠を表 3−5~表 3−8 に	
急時対策建屋北側には	 ・設計の相違
保管エリアには狐崎部	(女川は、解析用物性値を牧の
	浜部層及び狐崎部層に分けて設
	定)

《参考》東海第二発電所		j j j				P発電		第2号	
			ас X (С X) h	0.03	0.03	0.03	. 03	03	
			۶ I.	1 1				i i	0.03
	.(狐崎部)層) ******	19月1日 - 19月100000000000000000000000000000000000	an a ∼un a letra. Gu (N ∕un ²)				秋 3-1(2)参照		
	一月物性値	的特性	N = N = N = N = N = N = N = N = N = N =		0.31	0.24	0.29	0.20	0.26
	地路の解却							++	980
	(1)	利用	x = x = x = • (N∕mm ²)	1. 36 σ ^{0.62}	1. 30 σ ^{0.73}	1. 30 σ ^{°. 13} 1. 36 σ ^{°. 62}	1. 30 0 ^{0.73}	1. 15 σ 1. 16 σ ^{0.62}	1. 16 σ ^{0.62} 0.73 σ ^{0.76}
	表 v	海武寺住 静均,影的特 十九十六~			43.0	43. 0 46. 0	43.0	47.0	47.0
		100 C	τ ~ μη χεις τ ∘ (N ∕ μμ1²)	1.58	1.72	1.72	1.72	0.49	0.49
	11 11 12 14 14 14 14 14 14 14 14 14 14 14 14 14	物理特性 単位体後重量	γ (kK√m³)	26.9	28.7	26.2 26.6	28.0	40.4 25.8	25.2
		影	9	n A A	また。 第245	御 御 第 一 二 一 二 一 二 一 二 一 二 一 二 一 二 一 二 一 二 一 二 一 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二	## そう す	e ale Dot	部 う う た
		3년 第6		四		C= し		C⊮ ₩	
		麦 3-1(1) 地盤の解析用物性値(狐崎	表 3-1(1) 地盤の解析用物性値(狐崎部層) 表 3-1(1) 地盤の解析用物性値(狐崎部層) <u>素度特性 素部特性 香油酸特性 医部特性 高部特性 高部特性 高部時</u>	表 3-1 (1) 地船の解析用物性値(弧崎) 	第3-33-1 (1) 地盤の解析値(弧崎部層) 第3-3 1.1 地盤的作値(弧崎部層) 第3-3 地盤特性 第3-3 第4-3 地醫特性 第4-3 第4-3 1.1 1.1 第5-3 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1	************************************	· 분류 · 분류 · 분류 · 분류 · 분류 · 26:9 1.12 45.0 1.00 ⁻¹¹ 1.170 0.21 · 1.170 0.21 · 1.171 4.0 1.00 ⁻¹¹ 1.170 0.21 · 1.171 0.021 · 1.171 4.0 1.00 ⁻¹¹ 1.170 0.21 · 1.12 4.0 1.00 ⁻¹¹ 1.170 0.21 · 1.12 4.0 1.00 ⁻¹¹ 1.170 0.21	* 2:100 전 1:20 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	北市市 北市 北市

										備考		
						• 1	記載	表刊	見の	相違		
0.03	0.03	0.03	h =	0.085ッノ (0.00026+ ッ)	+ 0. 028							
			$G_0 = 255.4 \sigma^{0.26}$	G.J. V.00 =	$1 / (1 + 119 \gamma^{0.63})$							
0.31	0.31	0.31	0.38	0.38	0.38							
400	400	400	78	39	78							
0.73 σ ^{0.76}	0. 58 $\sigma^{0.31}$	0.73 o ^{0.76}	0.41 σ ^{0.49}	0.12 $\sigma^{0.21}$	0.41 $\sigma^{0.49}$							
44.0	27.0	44.0	24.0	24.0	24.0							
0.46	0.44	0.46	0.10	0.10	0.10							
24.1	24.1	24.1	20.2	20.2	20.2							
방품	an M	なん場	아유 아유		いん岩							
	。 CL 風			۵ Ŵ								

柏崎刈羽原子力発電所第7号機	《参考》東海第二発電所			川原子力発電展			備考
				地盤の解析用 	動的変形	沙特性	・記載表現の相違
		岩種	・岩級	速度層	動せん断弾性係数 G ₄ (N/mm ²)	動ポアソン比 _{V 4}	
				第2速度層	1.5×103	0.44	
			砂岩	第3速度層	5.9×10 ³	0.40	
			炒石	第4速度層	13.2×103	0.36	
				第5速度層	16.5×103	0.35	
		B 級		第2速度層	1.6×103	0.44	
		及び	頁岩	第3速度層	6.0×10 ³	0.40	
		C _n 級		第4速度層	13.5×10 ³	0.36	
				第5速度層	16.7×10 ³	0.35	
			ひん岩	第3速度層 第4速度層	6.4×10 ³ 14.2×10 ³	0.36	
				第4述医暦 第5速度層	14.2×10 ³	0.35	
				第1速度層	0.2×10 ³	0.48	
				第2速度層	1.5×103	0.44	
			砂岩	第3速度層	5.7×10 ⁸	0.40	
				第4速度層	12.7×103	0.36	
				第5速度層	15.8×10 ³	0.35	
				第1速度層	0.2×103	0.48	
		C _u 級		第2速度層	1.5×103	0.44	
			頁岩	第3速度層	5.9×10 ³	0.40	
				第4速度層	13.0×10 ³	0.36	
				第5速度層 第2速度層	16.2×10 ³ 1.5×10 ³	0.35	
			ひん岩	第3速度層	5.7×10°	0.40	
			0%2	第3法度宿	12.7×10 ⁵	0.36	
				第1速度層	0.2×10 ³	0.48	
		G	顽	第2速度層	1.4×10 ³	0.44	
				第3速度層	5.5×10 ³	0.40	
			kız	第1速度層	志 9-1/1) <i>条</i> 昭	0.48	
		D	<u>Juny</u>	第2速度層	- 表 3-1(1)参照	0.44	
		1					
		1					
		1					
		_					
							州がちてため八眼でもナル1 -

	ラントの記載との比較表(VI-2-別添 3-2)可搬型重大事故等対処	⊔設備の保管エ ┃						Lake
柏崎刈羽原子力発電所第7号機	《参考》東海第二発電所		-	女川原子	·刀発電	⑤肝第	2 号	溌
		の浜部層)	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		0.03	表3-2(2)参照 0.03 0.03	0.03	0.03
		地盤の解析用物性値(牧の浜部層)	 #86.特任 ※教 静火レン光 10. v. 	0.21 0.23 0.18	0.19 0.22	0. 18 0. 24	0.21 0.24	0.26
		○解析用物	春色 春隆在探锁 E. (N Jai ²)	4.100 3.700 2.800	1.900	1. 900 1. 200	1. 500 1. 200	250
			在 淡韶淡原 5(N mm ²)	$\frac{1.12 \sigma^{0.74}}{0.96 \sigma^{0.31}}$	$\frac{1.12}{0.96} \sigma^{0.74}$	1.12 σ ^{0.74} 1.09 σ ^{0.72}	0.96σ ^{0.31} 1.09σ ^{0.72}	0.73 a ^{0.76}
		表 3-2(1)	墨	54.0 32.0 54.0	54. 0 32. 0	54. 0 50. 0	32.0 50.0	44.0
			やん第強度 co(N/mm ²)	1.29 1.25 1.29	1.29 1.25	1.29 0.78	0.76	0.46
		1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	w 独行住 単位体積重量 ッ(kN/m³)	26.4 27.1 27.9	26.2 27.1	27.9 25.5	25.4 25.5	23.1
			楽訳・1	第1第1章 第1第2章 111章	<u>釈</u> 釈 命 国	釈?☆	東北 ひんぱ	北合
			続き JPR	图	ت ش		。	

0.03	0.03	0.03	h =	$(0.085 \times /)$	+ 0. 028
			G ₀ = 255.4 σ ^{0.26}	Gi/Go=	$1/(1+119\gamma^{0.63})$
0.26	0.26	0.26	0.38	0.38	0.38
250	180	250	78	39	28
0.73 o ~ ! "	0.58 0 ^{0.31}	0.73 σ ^{0.76}	0.41 σ ^{0.49}	$0.12 \sigma^{0.21}$	0.41 o ^{0.49}
4 1 . 0	27.0	44.0	24.0	24.0	24.0
0.45	0.44	0.46	0.10	0.10	0.10
23.1	23.1	23.1	20.2	20.2	20.2
<u>ال</u>	馬	むん岩	宇 倉	東海	おん岩
	い			回後	

柏崎刈羽原子力発電所第7号機	ノントの記載との比較表(VI-2-別称 3-2 可振空重入事故等対 《参考》東海第二発電所			川原子力発電			備考
		表	3-2(2)	地盤の解析用			・記載表現の相違
		岩積	・岩敷	達皮層	動台友子 動台人新弾性保数 G ₄ (N/mm ²)		
				第2速度層	1.2×10 ³	0.45	
			國語	第3速度層	4.7×10 ³	0, 41	
			10 M	第4速度層	11.5×10 ⁸	0.34	
				第6速度層	16.8×10 ⁸	0.33	
		B		第2速度層	1.2×10 ³	0.45	
		及び	頁段	第3速度層	4.7×10 ³	0.41	
		C, 10		第4速度層	11.5×10 ⁸	0.34	
				第6速度層	16.8×10 ³	0.33	
			73.2 14	第3速度層 第4速度層	4.7×10 ³ 11.5×10 ⁸	0. 41	
			ひん滑	第5速度層	16.8×10 ⁸	0.34	
				第1速度層	0. 2×10 ³	0.48	
				第2速度層	1. 2×10 ⁹	0.45	
			砂岩	第3速度層	4.7×10 ²	0.41	
				第4速度層	11.5×10 ⁸	0.34	
				第6速度層	16.8×10 ⁸	0.33	
				第1速度層	0, 2×10 ³	0.48	
		C. R		第2速度層	1.2×10^{3}	0.45	
			實證	第3速度層	4.7×10 ³	0.41	
				第4速度層	11.5×10 ⁸	0.34	
				第5速度層	16.8×10 ⁸	0, 33	
				第2速度層	1.2×10 ³	0.45	
			ひん岩	第3速度層	4.7×10 ³	0. 41	
				第4速度層 第1速度層	11.5×10 ⁸ 0.2×10 ³	0.34	
			. We	第1速度層	1. 2×10 ³	0.45	
				第3速度層	4.7×10 ³	0.41	
				第1速度層		0.48	
		D	蔌	第2速度層	表 3*2(1)参照	0.45	
			Г				
				本資料のうち枠囲る	みの内容は、他社の)機密事項を含む可	「能性があるため公開できません。 - 15 -

赤字:設備,運用又は体制の相違点(設計方針の相違) 緑字:記載表現,設備名称の相違点(実質的な相違なし) : 前回提出時からの変更箇所

盛士(えか)	開売業品 豊富等品 酸合業品 酸合業品 酸合学品	v, k=0.183 √ (y +0.00261)	y <3×10 ⁻¹ h=0.135+0.02010±y 0.46 h=0.23±0.0 ⁻¹ ≦y <2×10 ⁻¹ h=0.21 2×10 ⁻¹¹ ≦y h=0.22	y <1 × 10 ⁻¹	y ≪3.5×10° ⁴ 0.35 8⇔0.014 0.31 8+0.0310sy 1.31.13+0.0310sy	y <1.2×10 [°] h = 0.01 1.2×10 [°] ≤ y ≤ 5.2×10 ^{° 1} 1.2×10 [°] ≤ y ≤ 5.2×10 ^{° 1} h = 0.13 h = 0.13	0.05		・記載表現の相違
盛士(まか)		2		46					
盛士(まか))	型 載 新聞				1 1	é	0.2		
		ور (الالمهم) 1/2 (1+ براد موموره) * 1/2 (1+ براد موموره) *	$q_{e} = 211 \sigma^{4.4}$ $q_{e} = Q_{e} \sqrt{q_{e}} = 1/(1 + v \sqrt{q_{e}} \cos 7)$	Q,=192.3 σ ^{4.34} 6.√6,= 1.√ (1 + √ 0.0012)*	β ₁ =1670 β ₁ √G ₆ = L√(1+γ√0.0005)	0,−0,126) 6,√0,= 1,√1, × √0,00126)	11. 667		
田物性	移画 第11-2012日	, ş	0.40	07-0	6.25	61-0	0.2		
の解析し	5 4 5 7 8	N/	302 7 ^{6.56}	田橋方向 124-5ヶ ^{年16} 全人時方向 44-45ヶ ^{6,86}	069	4,450	25, 000		
00 - 00	405 291 201 202	τ (Mi∕tana ⁵) 0.06 + σ tan 30.0*	0.05 + o tai26.2"	0. 0674 or teazo. 2°	0.21 + o tanto.9"	0.61 + o tan34.6°			
表	施度特性 · 鼎的特性 引强法庭	σ. (K∕em ³) -	I	I	0.46	0.65	,		
	(m) (中) (m) (m) (m) (m) (m) (m) (m) (m) (m) (m	90.0	26.2	22.2	44-3	122		18 10, v = 1 √9	
	*	4	90 0	0. 067	89 °	1- 39		- 信光学業業であった。 イントーロノニー	
	御 御 御 御 御 御 御 御 御 御 御 御 御 御 御 御 御 御 御	20.6	18.0	9 9 12	21- ê	20. 20.	0 10	\$ }	
	₩₩. ●₩	1 M	七 表 四	展開 対応2トーマ	セメント改良土	没 便商 戰	「二派」であって、二派遣	注記 ≈ : 於存剛性 者 6.= €.∕.2	
マンメイドロック (既近 (f ck=15.6 N/m ²) マンメイドロック (新 (f ck=21.0 N/m ²)	物理特性 単位体積重 γ (kN/m ³ () 22.6 () 22.5	注 注量 せん断強) _{て 0} (N/mm ² 3.12 4.20	強度特性 度 内部摩擦角 弓 ο (°) σ, -* _*	張強度 残留強 (N/mm ²) ⊤ (N/mm 1.43 -*	度 ヤング係 m ²) (N/m ²) 20590	イドロッ 変形 数 せん所例性 (X/m ²) 8579	・ク)		・記載表現の相違
	表 (************************************	E-C: RX 東京 東京 東京	$\frac{1}{8} \frac{1}{100} \frac{1}{1$		$S - C = \frac{1}{2} \frac{1}$	$\frac{\Gamma_{\text{events}}^{\text{events}}}{\Gamma_{\text{events}}^{\text{events}}} = \frac{\Gamma_{\text{events}}^{\text{events}}}{\Gamma_{\text{events}}^{\text{events}}} = \frac{\Gamma_{\text{events}$	$\frac{\sqrt{2}}{\sqrt{1+2}} = \frac{\sqrt{2}}{\sqrt{1+2}} = \frac{\sqrt{1+2}}{\sqrt{1+2}} = \frac{\sqrt{1+2}}{1+$	$\frac{1}{1} = \frac{1}{1} = \frac{1}$	$\frac{\mathbb{C}}{\mathbb{C}} \mathbb{R}^{n} = \frac{1}{10000000000000000000000000000000000$

先行審査プラントの記載との比較表(VI-2-別添3-2)可搬型重大事故等対処設備の保管エリア等におけろ入力地震動)

赤字:設備,運用又は体制の相違点(設計方針の相違) 緑字:記載表現,設備名称の相違点(実質的な相違なし) : 前回提出時からの変更箇所

柏崎刈羽原子力発電所第7号機	デラントの記載との比較表(VI-2-別添 3-2 可搬型重大事故等対 《参考》東海第二発電所							電所第		幾
			特性 餘的特性				B 483			
		执 (狐崎部層)	制成	"是这世代的"。 "是这些时候,"	の地と同じ商	岩盐成形 衬 靴	「同」の記載	のなって、日本では、日本では、日本では、日本では、日本では、日本では、日本では、日本では	御光と同じ蔵	の地と同じ商
		地盤の解析用物性値の設定根拠(狐崎部層)	张奕铸住 静时,象时将住	レロックせい発展観。 基確的名言語。	夏口回る紫金	レロックカン理査院 養務防治室施	急帯で回じ 御い回じ 第11	の始れ三日向 ロシンホン元度家 種類活花室製	続單値	物化と同じ合
		麦 3-5 地盤の解析	钓建特性	新闻品句		新加坡	1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	에 		急帯 2回ご値
		υiX	岩橋・岩奈	第2 第2 第2 第2		黑 稔	ale, al lac, ç	କ ଅକ୍ଷ ଅକ୍ଷ	34Q Hat	5 Y 8
			900 900	8 及 CC	¢ ت	瑞 [ご	M M		<u>厳</u>	

先行案本プラントの記載との比較表(WI-2-別添 3-2) 可搬刑重大事故等対処設備の保管エリア等における入力地電動)

幾				備考
				・記載表現の相違
後に見ている。	通い回っ路命	御行司に使		
心地上间 1. 一般 一般	绕翼使	御光三回に御命		
の地で回じ商 日レックルと原始 獲得売売支援	絶其値	御に回じ御命		
御 11日 「 「 「 」 「 」 「 」 「 」 「 」 「 」 「 」 「 」 一 一 一 一	換算使	御に回いたの	蔵を用いる。 -	
## ## 合	340 Hati	55 8	注記*:目歌については、「山歌と同じ盧を用いる。	
	¢ ۵		注記 * : 国後につい	

柏崎刈羽原子力発電所第7号機	プラントの記載との比較表(Ⅵ-2-別添 3-2)可搬型重大事故等 《参考》東海第二発電所	<u> </u>		<u>における</u> 女川原子			号機				備考	
											・記載表現の相違	
		ž Motivitet	111 J.J.C.H.GM		Pro 核 缩			維度し三軸試験	参当 2 回 こ 値 参当 2 回 こ 値 参			
		畏拠(牧の浜部層 ^{●●●●●}	11-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1	換算值 地鑑変形欲職	移塔と同じ値 移場と同じ値 場報学派課録	山田大学会会	換算値 砂岩と同じ値	砂岩と同じ値換算値	換算値 砂垢と同じ値			
		地盤の解析用物性値の設定根拠(牧の浜部層) ^{wanne} monoteine m	111 JAAC H 1988 - C H 488	G. 酸と同じ値 プロックせん解決酸 感覚抗症的	換算値 砂岩と同じ値 プロックせん断試験	席勝抵抗抗酸 プロックセム所試験 原根抵抗抗酸 砂岩と同じ値	ロックせん断説験 摩擦抵抗試験 換算値	砂岩と同じ値 ロックせん断割機 腰線折片が輸	換算值砂岩と同じ値			
			物度	Ga 級と同じ催 ee en estates	俗民民國	密度試験 秘档と同じ値	密度試驗	砂岩と同じ値密度試験	換算値 砂岩と同じ値			
		^{經過·培厳}		B 一 日 8 後 の 2 2 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5		で 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	母当 C1 般 夏告		 回級 可必 可必必当 			
L				大次判の	ふナ 抗田	フカウタ	14 /4 ×	上の搬索	すてた	今 +。可4		- 18

赤字:設備, 運	夏用又は体制の相違点(設計方針の相違)
緑字:記載表現	,設備名称の相違点(実質的な相違なし)
:前回携	と出時からの変更箇所

CORPORT CORPORT <t< th=""><th></th><th></th><th></th><th>備老</th></t<>				備老
振行 (1) - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 -	<u>柏崎刈羽原子力発電所第 7 号機</u>	パラントの記載との比較表(VI-2-別添 3-2 可搬型重大事故等 《参考》東海第二発電所	安川原子力発電所第2 号機 (3)(1)(3)(1)(1)(1)(1)(1)(1)(1)(1)(1)(1)(1)(1)(1)	<u>備考</u> ・記載表現の相違

柏崎刈羽原子力発電所第7号機	《参考》東海第二発電所	設備の保管エリア等における入力地震動) 女川原子力発電所第2号機	備考
			・記載表現の相違

柏崎刈羽原子力発電所第7号機	ラントの記載との比較表(VI-2-別添 3-2 可搬型重大事故等対処 《参考》東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
			・記載表現の相違

- 舟に密木プニントの計掛しのは読ま		可搬型重大事故等対処設備の保管エリア等における入力地震動)
	(VI-Z-BI148-3-Z	

	ンフントの記載との比較表(VI-2-別添 3-2)可搬型車大事故等対処		の八月地展到	
柏崎刈羽原子力発電所第7号機	《参考》東海第二発電所	女川质	原子力発電所第二	2 号機
		(2) 地下水位		
		保管エリアにお	ける地震応答解	¥析に用い
		添付書類「VI-1-1-1		
		保管場所及びアク		
		緊急時対策建屋		
		水位は,添付書類		
		計算書」に示す緊	急時対策建屋と	同様に認
		各保管エリア等	における地下水	位の設定
		表 3-9 各保管二	ニリア等における	る地下水
		対象	地震応答解析モデル の位置	地下才 (m
			D	0. P. +((地表
		第1 保管エリア	2	0. P. +((地表
			3	0.P.+((地表
		塗り炉塗っリマ	NS 方向	0.P.+((地表
		第2保管エリア	EW 方向	0.P.+((地表
			D	0.P.+) (地表
		第3保管エリア		0. P. +
			2	(地表
			1)	0.P.+((地表
		第4保管エリア	2	0. P. +
			2	(地表
		緊急時対策建屋北側	-	0.P.+((地表
		注記* : 2011 年東圳 すると, 表記 いても同様。	2地方太平洋沖出 値より一様に約	

	備考
]いる地下水位は,	・記載表現の相違
て事故等対処設備の	・設計の相違
設定する。	(地下水位設定方針の相違)
	(地十小匠取足力如砂相崖)
下解析に用いる地下	
対策建屋の地震応答	
設定する。	
定を表 3-9 に示す。	・記載表現の相違
水位の設定	
下水位*	
ト水12.* (m)	
+61.73	
1表面)	
+61.77 1表面)	
+61. 69	
1表面)	
. +62. 00 也表面)	
+62.00	
也表面)	
+14.80	
也表面) +14.80	
电表面)	
+62.00	
地表面)	
+62.00 也表面)	
+62.00	
也表面)	
半う地殻変動を考慮	
下。以後の記載につ	

	 (3)使用材料及び材料の物性値 第2保管エリアである淡水貯水槽における使用材料及び 地震応答解析に必要な材料の物性値を,表3-10に示す。 表3-10使用材料及び材料の物性値*1 1 1 1 1 1 1 1 2 2 1 1 2 2 2 1 1 2 2 2 2 2 2 2 3 3 4 2 3 4 4 2 3 4 4 5 4 <	 ・記載表現の相違 ・評価方法の相違
	ヤング係数 E (N/mm²)せん断弾性係数 G 	・評価方法の相違
	*2: E=3.35×10 ⁴ × $\left(\frac{23}{24}\right)^2$ × $\left(\frac{24}{60}\right)^{\frac{1}{3}}$ =22669 N/mm ² ⇒2.27×10 ⁴ N/mm ² $G = \frac{3.35 \times 10^4 \times \left(\frac{23}{24}\right)^2 \times \left(\frac{24}{60}\right)^{\frac{1}{3}}}{2(1+0.2)} = 9445.4 \text{ N/mm^2}$ $\Rightarrow 0.945 \times 10^4 \text{ N/mm^2}$ $\Rightarrow 0.945 \times 10^4 \text{ N/mm^2}$	
	 *3: 鉄筋ユングリートの場合は24とする。 (4) 基準地震動Ss 保管エリア等における地震応答解析に用いる基準地震動Ssとび弾性設計 用地震動Sdの策定概要」に基づき、水平方向及び鉛直方向 に対して、解放基盤表面で定義される基準地震動Ssを用いる。 	

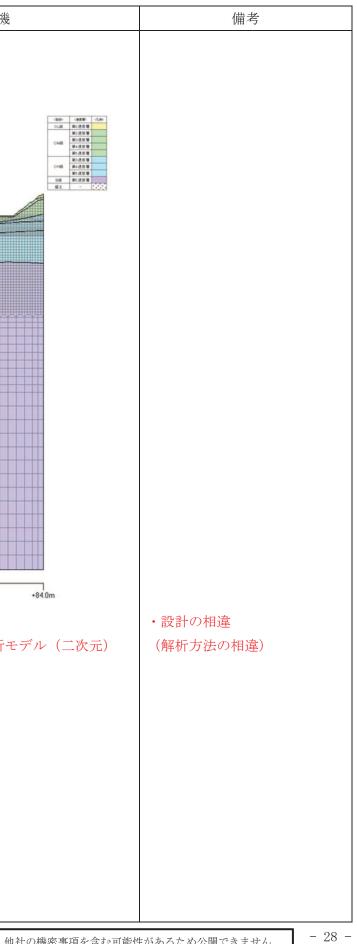
柏崎刈羽原子力発電所第7号機	プラントの記載との比較表 (VI-2-別添 3-2 可搬型重大事 《参考》東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
		3.3 地震応答解析モデルの作成 地震応答解析モデルは、各保管エリア等において、周辺の地 質構造を考慮して作成する。なお、第2保管エリアは淡水貯水 槽上に設定されており、地盤及び構造物をモデル化する。 地震応答解析モデルの作成位置を図 3-2 に、地震応答解析 モデルを図 3-3~図 3-7、表 3-11 及び表 3-12 に示す。	 ・記載表現の相違 ・設計の相違 (保管エリア等の設置状況の相
		<complex-block><complex-block><complex-block></complex-block></complex-block></complex-block>	
			生があるため公開できません。 - 24 -

柏崎刈羽原子力発電所第7号機	プラントの記載との比較表(VI-2-別添 3-2 可搬型重大事故 《参考》東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
		第1位電エリアの 第1位電エリアの 第1位電エリアの 第1位電エリアの 1000000000000000000000000000000000000	
		本資料のうち枠囲みの内容は、他社の機密事項を含む	可能性があるため公開できません。 - 25

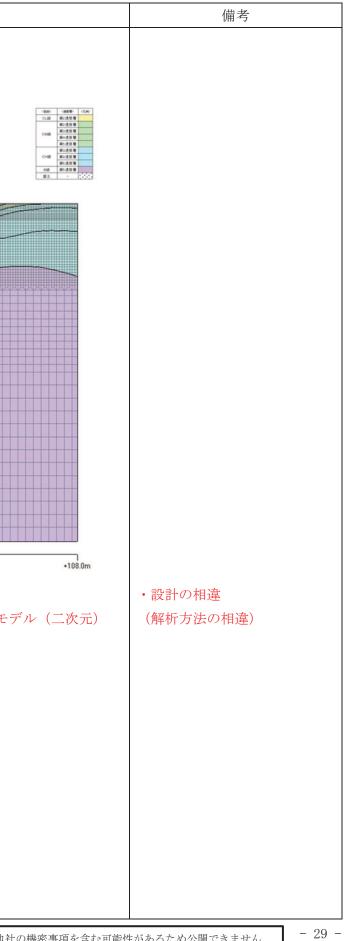
柏崎刈羽原子力発電所第7号機	ントの記載との比較表(VI-2-別添 3-2 可搬型重大事故等対処 《参考》東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
			・設備名称及び記載表現の相違

柏崎刈羽原子力発電所第7号機	《参考》東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
			・設備名称及び記載表現の株

柏崎刈羽原子力発電所第7号機	2フラントの記載との比較表(VI-2-別添 3-2 可搬型重大事故等対処 《参考》東海第二発電所		女川原子力発電所第2号機
		O.P.+62.0m +50.0m	
		+0.0m-	
		-50.0m-	
		-100.0m-	
		-150.0m-	
		-200.0m-	l 0.0m
		図 3-4(1) 第2	(1) NS 方向保管エリアの地震応答解析モ
			本資料のうち枠囲みの内容は、他



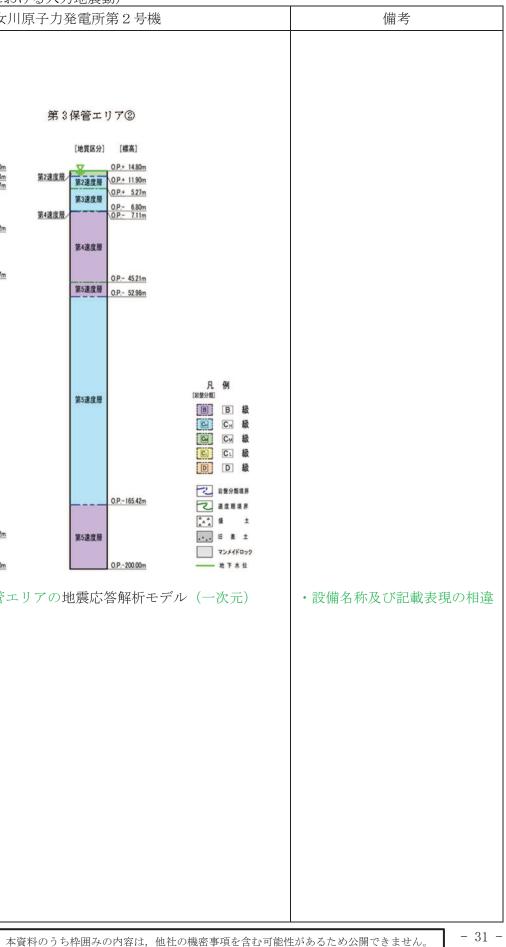
柏崎刈羽原子力発電所第7号機 《参考》東海第二発電所 女川原子力発電所	所第2号機
O.P.+62.0m	1 and
+50.0m-	
-50.0m -	
-100.0m —	
-150.0m-	
-200.0m	
-108.0m 0.0	Im
(2) EW 方	ī向
図 3-4(2) 第2保管エリアの地震	
本資料のうち枠囲み	の内容は、他社の



柏崎刈羽原子力発電所第7号機	<u> 留了フラントの記載との比較表(VI-2-別称3-2 可搬空車入事故等対対</u> 《参考》東海第二発電所		子力発電所		Ś
		表 3-11 第2保管エリア			
			(NS 方向		
			質重量	回転慣性	断
			点 ¶ 番 (Ms) 番	Ig (×10°kN*m²)	ť
		<u>VO.P.62.1 (m)</u>	뮥		(×
		<u>▼0.P.62.1 (m)</u> (1)	1 215960	320.3	
					10
		<u>⊽0.P.51.8 (m)</u> 2	2 252930	376.4	3;
		<u></u> <u></u>	3 81650	120.2	
		 ・基礎スラブ:4 ・総重量:55054 表 3-12 第2保管エリア 	0 (524760) kN		デル
		X 0 12 别 2 休日—) /	(EW 方向		/• (
]	質重量	回転慣性	断词
			点 W 番 (kN)	Ig (×10°kN+m²)	3
			뷱		(×)
		<u>vo.P.62.1 (m)</u>	1 215960	527.7	_
			1 215500	527.7	- 15
			2 252930	619.2	
		<u>V0.P.48.8 (m)</u> (2)	3 81650	198.6	- 55
		<u>▽0.P.48.8 (m)</u> ・基礎スラブ:4	2 0m (NS) × 5	4 0m (RM)	
		• 総重量 : 55054			
		本資料	のうち枠囲み	の内容は,	他社の

		備考
ル(質点	系)諸元	・設計の相違
		(解析方法の相違)
断面 2 次 モーシト I (×10 ² m ⁴)	せん断 断面積 AS (m ²)	
1095.1	405.0	
3334.0	2268.0	
ル (質点 ^{断面2次}	系)諸元	・設計の相違 (解析方法の相違)
₹-\$>ŀ I (×10° m⁴)	断面積 AS (㎡)	
1576.6	388.8	
5511.2	2268.0	
	断面 2 次 モーシト I (×10° m*) 1095.1 3334.0 5.1 5.1 5.1 5.1 5.1 5.1 5.1 5.1 5.1 1095.1 <p< td=""><td>モーシト I 断面積 AS (×10° m*) (m²) 1095.1 405.0 3334.0 2268.0 3334.0 2268.0 ・ ・ <</td></p<>	モーシト I 断面積 AS (×10° m*) (m²) 1095.1 405.0 3334.0 2268.0 3334.0 2268.0 ・ ・ <

	行 番 査 フ フ ン ト の 記 載 と の 比 戦 表 (VI-2-別 添 3-2 可 搬 型 車 大 事 故 等 対 処 / 参 表 \) 東 海 第 二 発 雲 託	
柏崎刈羽原子力発電所第7号機	《参考》東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機
		第3保管エリア① 第3保管エリア②
		[地質区分] [標高] [地質区分] [標高]
		OP+ 14.80m OP+ 14.80m 第2速度層 0P+ 104m 第2速度層 第3速度層 0P+ 497m 第2速度層
		第3速度層 第3速度層 第4速度層 0P- 680m 0P- 7.11m
		O.P 18.12m
		第4速度層
		0.P- 43.17m 0.P- 45.21m
		第5速度層 O.P 52.98m
		第5連度層 第5連度層
		AT 40.04.11
		OP-16542m
		<u>OP-183.12m</u> 第5速度層
		第5速度層
		0 P-200.00m 0 P-200.00m
		図 3-5 第3保管エリアの地震応答解析モデ
		十次的のふた地画での中安は、他な



柏崎刈羽原子力発電所第7号機	ントの記載との比較表(VI-2-別添 3-2 可搬型重大事故等対処 《参考》東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
			・設備名称及び記載表現の相違

小松 小松	備考
・設備名	称及び記載表現の相違

柏崎刈羽原子力発電	所第7号機	《参考》東海第二発電所		女川原子力発電所第2号機	備考
柏崎刈羽原子力発電		<u>- シトの記載との比較表(VI-2-別添 3-2 可搬</u> 《参考》東海第二発電所	第4保管エリア(1 注意日) (相 第3速度用 0P-1 第3速度用 0P-2 第3速度用 0P-3 第3速度用 0P-3 第3速度用 0P-1 第3速度用 0P-1 第3速度用 0P-1 第3速度用 0P-1	文川原子力発電所第2号機 ① 第4保管エリア② 第4保管エリア② 第32500 第4課題 第4課題 第4課題 第32800 第4課題 第32800 第4課題 第32800 第4課題 第32800 第33900 第33900 第33900 第33900 第33900 第33900 第33900 第39000 第390	氏例 数回 目 載 二 品数 二 二 数 二 二 数 二 二 数 二 二 数 二 二 数 二 二 五 二 二 五 二
				本資料のうち枠囲みの内容は 他社の機構	- 34 密事項を含む可能性があるため公開できません。

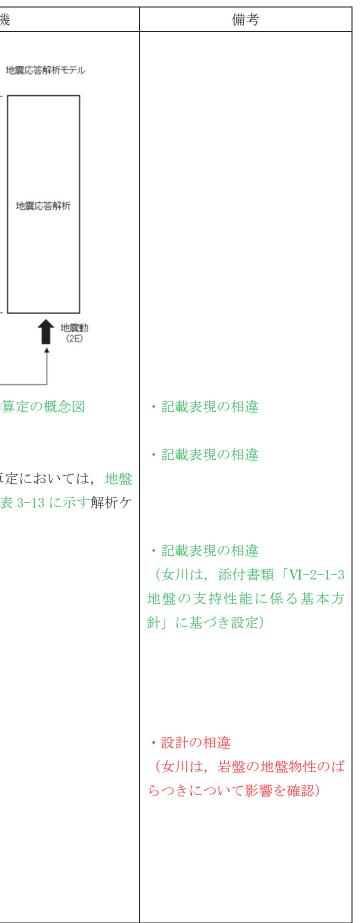
柏崎刈羽原子力発電所第7号機	《参考》東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
	7番査プラントの記載との比較表(VI-2-別添3-2 可搬型重大事故等表 《参考》東海第二発電所		備考
			:があるため小眼できません。 - 3

柏崎刈羽原子力発電所第7号機	《参考》東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機

備考
・記載表現の相違
(女川は, 添付書類「VI-2-1-3
地盤の支持性能に係る基本方
針」に基づき設定)

柏崎刈羽原子力発電所第7号機	《参考》東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
		3.4 地震応答解析に用いる地震動	・記載表現の相違
		地震応答解析に用いる地震動は、解放基盤表面で定義され	
		る基準地震動Ssを,一次元重複反射理論により地震応答解	
		析モデルの底面位置で評価したものを用いる。	
		地震応答解析に用いる地震動算定の概念図を図 3-8 に示す。	
		地震応答解析に用いる地震動の算定には,解析コード「SHAKE	・設計の相違
		Ver1.6」及び「microSHAKE/3D Ver2.3.3」を使用する。なお,	(解析コードの相違)
		解析コードの検証及び妥当性確認等の概要については、添付	・記載表現の相違
		書類「VI-5 計算機プログラム(解析コード)の概要」に示す。	
			・記載表現の相違
			(女川は, 添付書類「VI-2-1-3
			地盤の支持性能に係る基本方
			針」に基づき設定)

五行番金ノラントの記載との比較表(VI-2-別級 3-2 可搬空重大事故等対処設備 柏崎刈羽原子力発電所第7号機 《参考》東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機		
		地下構造モデル 地 ▽地表面 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 小 一 一 地表面 (2E ₀)	
		- 次元重複反 射理論(こよろう) 戻し解析 	
		↓ ↑ 下降波 上昇波 (F) L 図 3-8 地震応答解析に用いる地震動算	
		3.5 地震応答解析における解析ケース 保管エリア等における入力地震動の算気 物性のばらつきの影響を考慮するため、表 ースを設定する。	



柏崎刈羽原子力発電所	の記載との比較表(M-2-別称3-2 可搬空里入事故: 《参考》東海第二発電所		女川原子力発電所領	
			ア等は主として CM級岩 れらの地盤が地震時に	
			響を与えると判断され	
			を考慮した入力地震動	
			<mark>表 3-13 解析</mark> ケ	<u>ース</u>
		解析ケース	材料物性* (E ₀ :ヤング係数)	(G _d :動-
		ケース①		(0d . 99)
		(基本ケース)		
		ケース②	設計基準強度	ㅋ
		ケース③		म
		注記*:第1保管:	エリアの MMR 及び第2保管:	エリア直下の

	備考	
	・設計の相違 (女川は, 岩盤の地盤物性のば らつきについて影響を確認)	
吸岩盤, Β 級岩盤が リア等における入力 いら, これらの物性 る。	・設計の相違 (女川は,岩盤の地盤物性のば らつきについて影響を確認)	
地盤物性 動せん断弾性係数) 平均値 平均値+1 σ 平均値-1 σ 5の淡水貯水槽に適用。		

柏崎刈羽原子力発電所第7号機	《参考》東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
		4. 加速度応答スペクトルの算定 保管エリア等における入力地震動の解析ケースより,最大応	・記載表現の相違
		答加速度と加速度応答スペクトルを整理する。 なお、本資料では、表 3-13 に示す解析ケースのうち「基本ケ	
		ース」の算定結果を示す。	
		4.1 保管エリア等の最大応答加速度	・記載表現の相違
		第1保管エリアの最大応答加速度(基本ケース)を表 4-1~	・保管場所及び保管場所名称の
		表 4-3 に, 第2保管エリアの最大応答加速度(基本ケース)を	相違
		表 4-4 及び表 4-5 に,第3保管エリアの最大応答加速度(基	
		本ケース)を表 4-6 及び表 4-7 に,第4 保管エリアの最大応	
		答加速度(基本ケース)を表 4-8 及び表 4-9 に, 緊急時対策建	
		屋北側の最大応答加速度(基本ケース)を表 4-10 に示す。	